

研修だより

No.14

〈今後の予定〉

1月15日(月) ブロック研 指導案検討①

22日(月) 指導案検討②

29日(月) 授業研(エリア公開日)、事後研 ※この日は、所属グループ以外の授業参観O.K.!

6年新谷学級の授業は、都合により別日に行います。

これまでの研究を通して～子どもの変容

低

- 自分の意見を相手に伝えるのが恥ずかしいと思う子が、少なくなってきた。
- 振り返りが上手になった。(振り返りを参考にしながら、友達に思ったことを伝えることができるようになった。)
- 固まっている子が減って、少しでもやってみる子が増えた。
- 書く力がついた。
- 日々の積み重ねで、できることが増えてきた。
- シャムボードなど、タブレットを活用する幅が広がった。

中

- 主体性は大きく変容したと思う。指示を待つのではなく、取り組み方を自己選択する習慣が身についてきた。
- 学習参加率が増えた。
- 取り組むことが当たり前になってきた。笑顔も増えたように感じている。
- 主体的に活動することを求めたことで、教科書や各種資料、問題文などを注意深く読み取ろうとする力が伸びたように感じる。教師主導で教わる時よりも必要感が高まるからだと思う。

高

- 教え合う、困ったら聞き合える雰囲気が出てきた。(その素地ができてきた)
- 主体的に学習に取り組み、低位の子も友達と楽しそうに学習する姿が見られるようになってきた。
- 先生に頼らず、自分たちの力だけで課題解決に向かおうとする姿が見られるようになってきた。
- 子ども同士でわかりやすい表現や教え方で伝えることができるようになってきた。また、わからないところを聞いたり、どこがわからないかを聞いたりできるようになってきた。

特

- カモカモの5・6年生は自分から司会をする人が増え、助け合おうとする姿が増えてきた。みんな仲良くなってきた。
- 春からはなるべく学年を混ぜて活動してきたので、慣れて関わりが活発になってきた。
- 自分たちでやりたいことを決めさせると意欲的に取り組むことができるようになってきた。反面、見通しがもてない子は主体的に活動していくことが難しい様子もある。
- 自分以外のことを考えながら活動できているかどうかということがあがるが、経験を積み重ねていかせたい。

主体性

やってみる、取り組む
わからないことを聞く
表現しようとする

自ら学ぶ

子ども主体の課題解決
教材・教具を活用

かかわり

助け合い、教え合い、仲良く
相手に伝える、伝え方

意欲

楽しい、できる
自己決定

考察

現在の子どもの姿から、4月に設定した目指す子ども像にせまる研究が進められている実感が得られているとわかります。

懸念としてあげられている低位の児童や支援学級の児童、低学年の児童への指導について、研究部としては、この実践を積み重ねていくことで、自ら学ぶことが当たり前になったり、慣れたりしてインプットされると考えています。

目指していた「自ら学ぶ」主体性や、学習意欲の向上だけではなく、子どもたちの様子からは他者とのかかわる力も身に付いてきていることがうかがえます。

目指す子ども像

- ① 「やってみよう」と自ら進んで学ぶ子ども
- ② 社会性や自主性を身に付け、生きる力を育む子ども

これまでの研究を通して～教師の指導観の変容



低

- 子どもたちに任せる時間の保障を考えた。すっきりとした、ポイントを絞った授業をすることを心掛ける。
- 1年生は、厳しいと思っていたけれど、子どもたちに任せることはできるとわかった。そのための準備が大切。
- 委ねることができる場面が結構ある。大丈夫とわかった。
- 大事な部分を押さえることは大事だけど、一緒にできることがわかった。
- 一人だったら難しいけれど、友達と交流してできるようにってきた。(子どもたち同士だけでできる。)
- 教師が教える時間も大事。基礎基本を押さえたうえで、子どもに委ねる。
- 教師が話す時間を減らすことをより意識した。
- 子どもの個々の実態に応じて教えないといけないことも多い。

中

- 教師が喋らなくても授業が成り立ち、子どもが主体であっても大きく指導事項から逸れないことがわかった。
- 令和型日本教育で目指す「個別最適かつ協同的学び」の具体的なイメージの一つとして取り組み甲斐のある内容に感じる。気をつけていきたいのは「教科の系統性」「教師の指導性」を疎かにしてしまうこと。
- 今年度重点にした活動時間の確保や教師の指導を少なくすることに一定の成果はあるが、「なんでもあり」にしてしまうと、研究として深める意義のないものになる。児童に委ねた時間が有意義なものになるためには、本時前までの系統的な積み上げが成されているか、本時以降の到達目標が明確かどうか重要

特

- 教師が喋りすぎないように・・・子どもに対して「～させよう」とさせ過ぎないようにってきた。任せる。
- ある程度の道筋を立てるのは大事だが、子どもが自分で考えて自分で活動しようとするのを大切にしていきたい。

高

- 活動にたくさん時間をかけるようになってきた。机間指導の時間が増え、子どもの様子や理解の度合いをよく見取ることができるようになった。
- 教師と子どものやり取りではなく、子どもと子どものやり取りを意図的につくれるようになってきた。
- 習熟の児童と一緒に活動するとき難しさを感じる。学級内の差をどのように埋めていくのか、課題である。

- ★ポイントをしばった授業を意識するようになった！
- ★任せる、委ねることができるようになってきた！
- ★教師が喋りすぎないようになってきたし、意識している！
- ★交流の場の設定を設けるようになった！
- ★学びの時間を増やすようになった！
- ★子どもの見取りが充実してきました！

考察

教師の意識も変わってきていることがわかります。

右上のできるようになってきたことを、これからも意識し続けることが大切です。

◎単元全体で、評価をする。単元を通して、力を付けていく。

◎子どもに委ねる授業までの準備が大切。

◎子ども一人一人を1時間でみとるのは難しいが、授業中に机間指導をすることで、言葉掛けをしたり、子どもどうしをつないだりすることができる。たくさん回ることが大切。

◎そうすることで、困っている子に気付いたり、教師と一緒に考えたり、一緒に学習できそうな友達を見つけてつなげたりすることができる。

1月に授業する方はもちろん、日頃の授業においても、このようなことを意識していくと、懸念事項が解決されるのでは、と研究部で考えています。ぜひ、困ったら、この赤枠に立ち返っていただけたらと思います。

1月に授業される方は、教師の動きとして取り入れていただけたらと思います。

指導助言では、「一斉指導コーナーも選択肢の1つでは？」と案をいただきました。研究部としては、動き始めた1年目に、それをありにしてしまうと元に戻ってしまうのでは？との考えから、今のところ無い方が望ましいと考えています。

「公開研の運営について」「もっとやってみたいこと」「道徳の授業」についても、みなさんからたくさんの意見をいただきありがとうございました。冬休み中にまとめます。今後の研修だよりや全体研修、職員会議等でお知らせしていきます。

裏面には、17名の方のアンケートが記載されています。

生かしていけそうなことを、どんどん実践していきましょう。